

2026年9月19日 東北大学博士後期課程進学説明会

— 強くなってから、進むのではない

——博士後期課程で育った力と、企業研究者としての現在地

株式会社竹中工務店 技術研究所

未来・先端研究部 先端数理グループ

研究員 福田 伊織

— 自己紹介と会社概要

名前 福田 伊織（ふくだ いおり）
生年 1994年（32歳）
出身地 青森県弘前市
好きなもの コーヒー・美術館・おいしいもの

【簡単な来歴】

2019年 建築・社会環境工学科 卒業
2021年 都市・建築学専攻 博士前期課程 修了
2024年 博士後期課程 修了：博士（工学）

※ 指導教員は五十子幸樹教授（現・京都大学）

2024年4月～2026年3月 京都大学 特定研究員（学振PD）
2026年4月～ 現職 株式会社竹中工務店 技術研究所 研究員



建築（建設）の会社です

資本金(2026年3月現在)	500億円
売上高(2025年度連結)	1兆6,147億円
グループ会社	子会社55, 関係会社17, 他 1
従業員(2026年1月現在)	7,907名(グループ計13,598名)

投影のみ



本社・大阪本店



東京本店



GREEN × EXPO 2027
(竹中グループで「くるくるく」出展)
<https://www.takenaka.co.jp/greenexpo2027/>

— 講演タイトルに込めた思い

進学時点で強い人間でなくても、必要な力は途中で身につく
——そうやって身につけた力は、思いがけない場所で役立つことがある

博士課程と、その先のキャリアは真っ直ぐな一本道じゃない
——その後の選択肢を考え、学ぶ時間がある。大学に残る以外の研究者人生もある

あなたが「やりたい」と言えば、応えてくれる人がいる
——その声に懸命に応えることで、次の道が開けていく

私の過去を共に振り返ることで、あなたが今日よりも少しだけ、これらのことを信じられるようになれば。

— 私の博士課程について

「興味はあるけど、こんなことが不安です…」に答えてみる

学部4年生の12月頃。

卒論で取り組んでいた塑性分岐理論の研究を面白いと感じて、先生や友人、両親に相談し始めた。

友人や両親も「向いてると思う」と精神的に後押し。ただし、両親からは「経済的に自立すること」という条件を出された。

「絶対になんとかなる」とは言えませんが、
いまは、さまざまな支援制度があります

私もGP-RSS：災害科学・安全学国際共同大学院プログラム
から、経済的支援をいただいていた

※博士2年次からは、日本学術振興会特別研究員（DC2）からも支援を受けました

災害科学・安全学分野における，高い専門性を有した国際的人材を育成することを目指した学位プログラム

通常の博士課程に加えて，独自の修了要件があります

私の場合は，経済的に自立して博士課程を続けられる規模の支援をいただきました

修了要件の概要:

- 英語を中心とした講義を通常より多く履修（+6コマ程度）
- プログラム中間と期末に英語で口頭試問を受ける
- 期間中に半年間，海外の研究機関で研究活動を行う



<https://gp-rss.tohoku.ac.jp/index.html>



投影のみ

確かにタフ。でも、途中で身につけられる力でもあります

私も大してできませんでした（泣）

- 大学院入試時に提出したTOEICは630
- 学部の卒業直前、2週間もかけて執筆した国際会議の抄録の原稿（300語）は、先生が数時間手を入れただけで、原型がなくなるほど真っ赤に修正される

そんな人間でも、研究内容を英語で講演し、英語で質疑に答えて、60分間くらいなら、なんとか場を持たせられるようになりました。

今年の1月にETH Zurich*で講演する機会をいただいた

もちろん，入念に準備をしても，
一流講演者のようには，まだ話せない。

悔しさはある，研鑽はこれからも続く

*アインシュタインが教鞭をとった大学の一つ
<https://chatzi.ibk.ethz.ch/event-detail-page.how-do-we-implement-and-model-lowseismic-design-in-civil-structures-ideas-using-mechanics-and-materialbased-approaches.76631.html>



ETH zürich Structural Mechanics and Monitoring

Menu

Q EN

30

Fri
Jan
2026

Public lecture

SMM Seminars

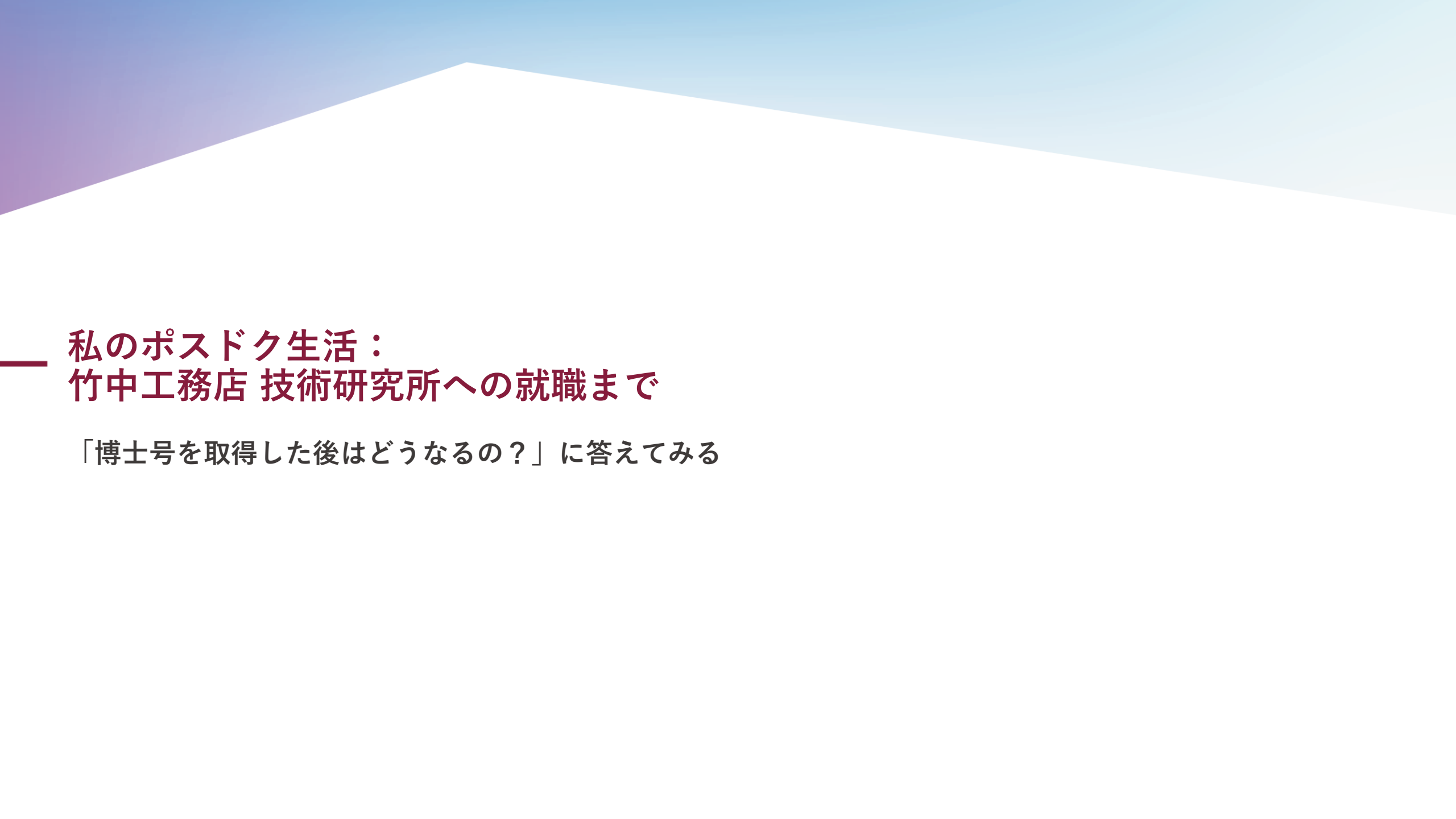
How Do We Implement and Model Low-Seismic Design in Civil Structures? — Ideas Using Mechanics- and Material-Based Approaches

From the perspectives of sustainability and resilience, low-damage seismic design in civil structures has attracted increasing attention. This seminar explores several new ideas for implementing and modelling such design using mechanics- and material-based approaches.

The first topic is a self-centring timber joint that incorporates a “new” shape memory alloy (SMA). SMA offers a simple, compact, and low-maintenance self-centring system without the need for complicated devices. Experimental results demonstrate the feasibility of the proposed joint and verify that a simple mechanics-based model can

show more +

Date	30 January 2026
Time	09.30 – 10.30
Location	Zürich Hönggerberg HIL E 36.1
Host	Prof. Dr. Eleni Chatzi Chair of Structural Mechanics and Monitoring
Speaker	Dr. Iori Fukuda Dr Iori Fukuda is a postdoctoral researcher at Kyoto University and a JSPS Research Fellow with a broad specialisation in structural



私のポストク生活： 竹中工務店 技術研究所への就職まで

「博士号を取得した後はどうなるの？」に答えてみる

任期付きの、博士号をもつ研究員

私にとっては、将来を模索しながら、経験を積む2年間



ありがたいことに
学振の特別研究員（PD）
に採択され、京大で
ポスドク生活をスタート

任期中に約1年、
ニュージーランドで
在外研究を実施

投影のみ

A screenshot of the JSPS website. The header includes the JSPS logo and the text 'JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE 日本学術振興会'. A navigation bar shows '特別研究員' (Special Researcher) and an 'English' link. The main content area is titled '特別研究員' and 'Research Fellowship for Young Scientists'. Below this, a paragraph explains the Special Researcher system: '特別研究員制度は、我が国の優れた若手研究者に対して、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、研究者の養成・確保を図る制度です。' (The Special Researcher system is a system that provides excellent young researchers in our country with the opportunity to devote themselves to research while freely selecting research topics, aiming to cultivate and ensure researchers.) At the bottom of the screenshot is a QR code and the URL 'https://www.jsps.go.jp/j-pd/'.

特別研究員
Research Fellowship for Young Scientists

特別研究員制度は、我が国の優れた若手研究者に対して、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、研究者の養成・確保を図る制度です。

GAKUSHIN JSPPS RESEARCH FELLOWSHIPS FOR YOUNG SCIENTISTS

<https://www.jsps.go.jp/j-pd/>

Yes。ただし、
「大学教員であれば、どこでも」とは言えなかった。

大学教員の仕事は、研究だけでなく、教育や組織運営を含み、
その配分や環境は、所属先によって大きく異なります。

私には、高い目標を掲げて研究しながら、
教育にも丁寧に向き合える場所にいたいという「欲」がありました。

だから、ポストク時代は「時計」を見ながら、
どこで折り合いをつけるかを考え続けていました。

JREC-INという、JSTが運営する
「研究人材向けの求人ポータル」
がある*

そこに、自分の専門にかなり近い職務で
竹中工務店から公募が出された

*ちなみに、アカウント登録不要で検索できるので
あなたの専門分野の求人を一度覗いてみてください

<https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekTop>



投影のみ

高い目標を掲げて研究できる場所が、民間にもあります



https://www.takenaka.co.jp/rd/index.html?cn=top_topics



研究室など、団体での見学も受け入れています。
ご関心があれば、ぜひお問い合わせください。

もちろん、建築の会社らしい研究が中心です

調の森(SHI-RA-BE)



防虫実験室



ホール音響シミュレータ



投影のみ

展示室(i-farm)



樹木対応型壁面緑化



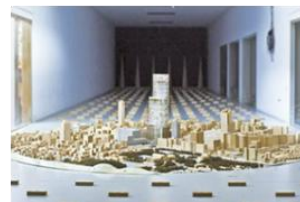
遠心模型実験室



大型構造実験棟



風洞実験室



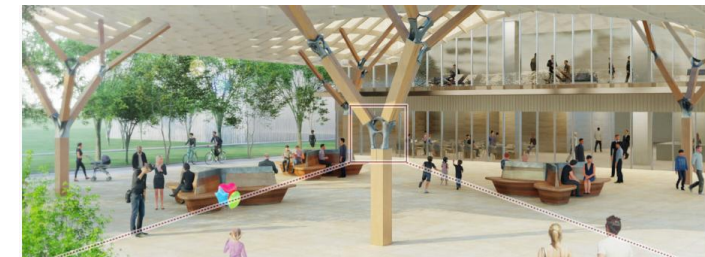
高度クリーン環境実験室



大型耐火実験棟



耐火集成材
(燃エンウッド®など*)



金属3Dプリンティング**

*<https://www.takenaka.co.jp/solution/environment/moenwood/>

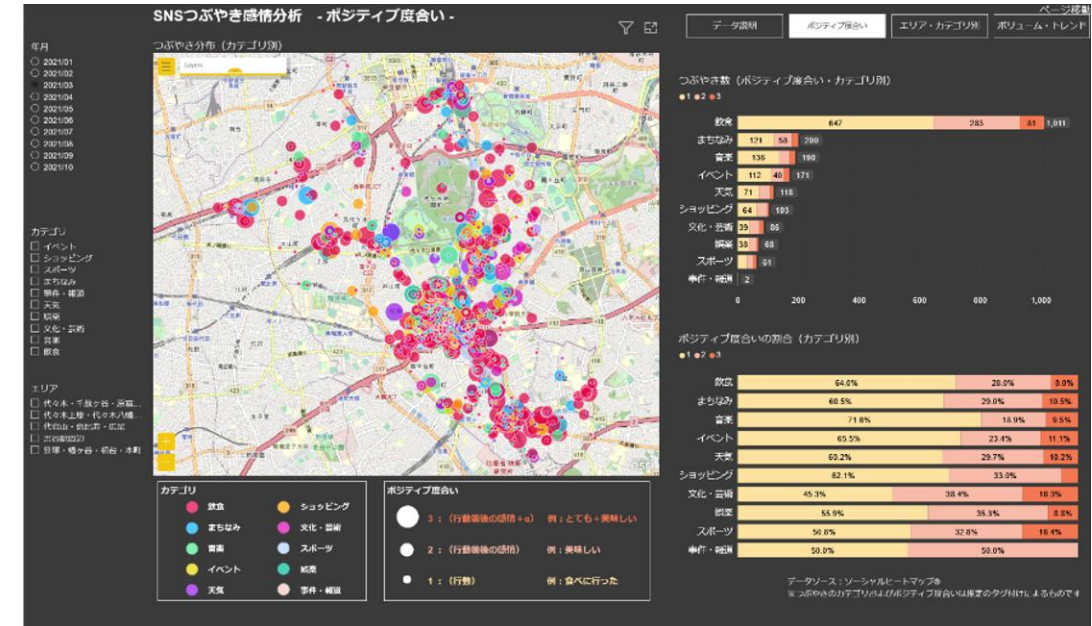
**<https://www.takenaka.co.jp/rd/numerical-analysis/05/index.html>

枠を越えて、幅広い研究に取り組んでいます



宇宙建築

<https://www.takenaka.co.jp/space-archi/index.html>



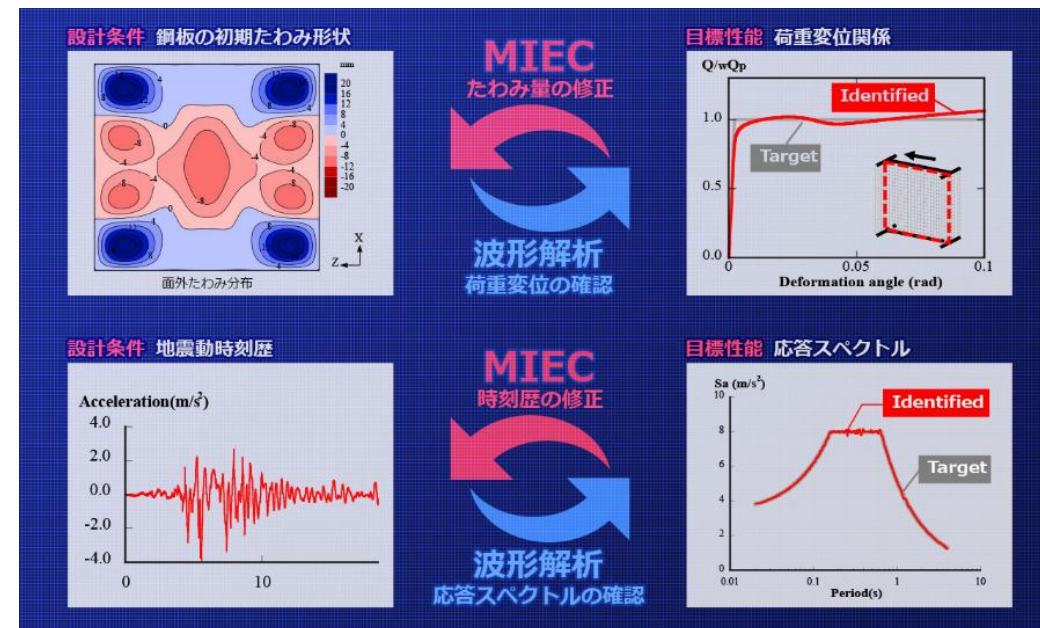
ソーシャルヒートマップ®

<https://www.takenaka.co.jp/solution/future/social/index.html>



SNS等のデータを用いて、
まちに対する人の想いを分析・可視化

その幅広さの中に、私の専門領域もありました



調の森 SHI-RA-BE®のランドスケープデザイン
<https://www.takenaka.co.jp/rd/nature-positive/shirabe/>



Instagramも
ぜひフォローしてください
@shirabe.no.mori

汎用逆解析技術 MIEC®

<https://www.takenaka.co.jp/rd/numerical-analysis/02/index.html>

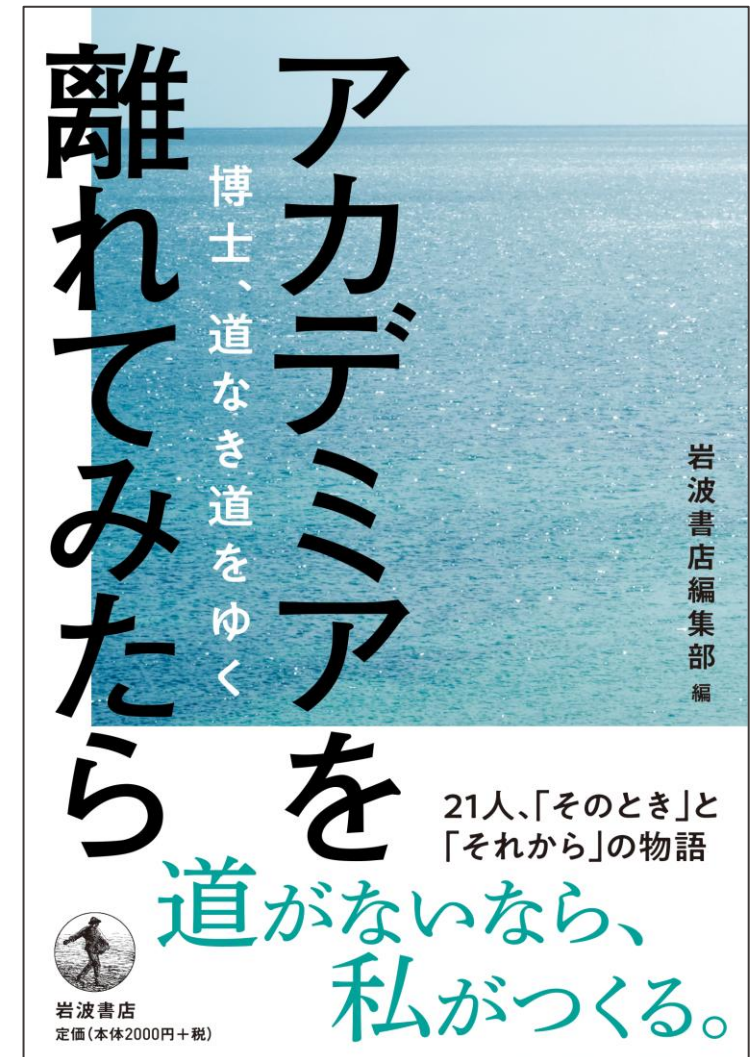


私の専門領域（所属）
博士課程からポスドクにかけて培った
解析の知識と研究経験が、
今の業務に役立っています。

どこで折り合いをつけるか、
「時計」を見ながら考えていた
ポストク時代が私にもありました。

私のストーリーは一例で、現在進行形です。

ぜひ、いろんな方からお話を聞いたり、文章を読んだりして、
たくさんの「道」があることを知ってもらえたらと思います。
(右の本はおすすめです)



— 最後に、ちょっと重たい問いについて

「そうはいつでも、やっぱり『タフ』で『ちょっとリスキー』ですよね？
運よく、上手く行っただけではないですか？」に答えてみようとする。

博士課程への進学は、現状、タフで、リスクもあります。
ただ、人から力を借りたり、リスクを小さくしたりはできます。

博士課程への進学を相談したとき、五十子先生は「大変だけれども、低リスクで高リターンですよ」と言って、国内で開催される国際学会への参加を勧め、原稿の作成をご指導くださいました

また、当時の東北大には、学振の特別研究員への申請時に、異分野の先生方からレビューを受けられる支援制度がありました。私自身も、こうした周囲の支援に大いに助けられました。

“「やりたい」と言えば、応えてくれる人がいます”

しかし、そのための行動を起こすためには、
次のことをよく考える必要があります。

Q: 今日、博士後期課程の話を聞いてみようと思ったのはなぜですか？

Q: 博士後期課程で叶えられる「夢」や「リターン」のために、
向き合える「タフさ」や「期間」はどれくらいですか？

Q: 博士後期課程に進まない道を選んだ時、
代わりにどのような「タフさ」や「心残り」がありそうですか？

支援する側も、何を目標しているのか、なぜ取り組みたいのかを深く知ろうとしてくれます。「やりたい」と声を上げることは、単なる意思表示ではなく、周囲が力を貸すための手がかかりにもなります。

あなたが思い描く「夢」が博士後期課程への進学でこそ叶うなら、どうか「やりたい」と声を上げて、多くの人を巻き込みながら、総力を挙げて、実現を目指してほしい。

私も、駆け出しの企業研究者として走り続けながら、皆さんのことを応援しています。

本日は、私の話を聞いてくださり、ありがとうございました

